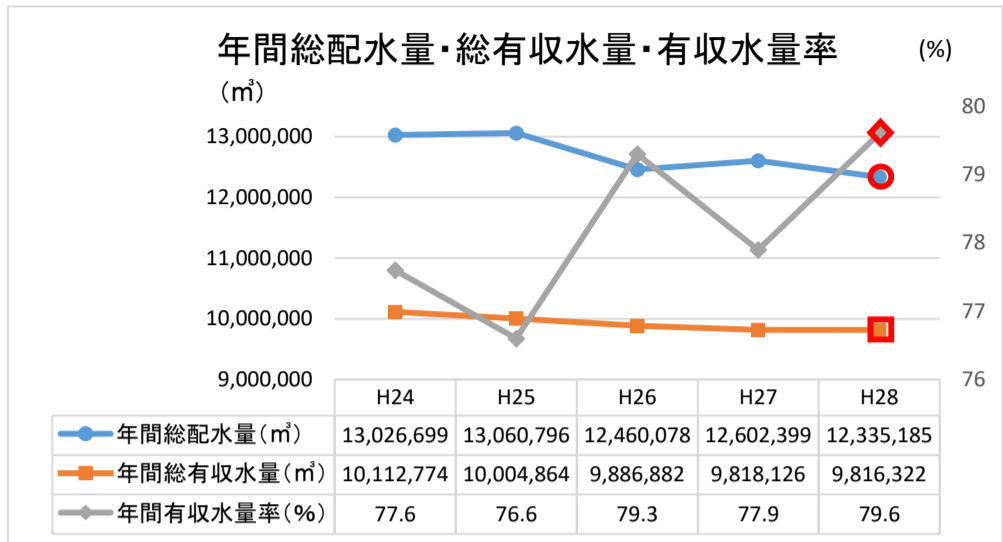
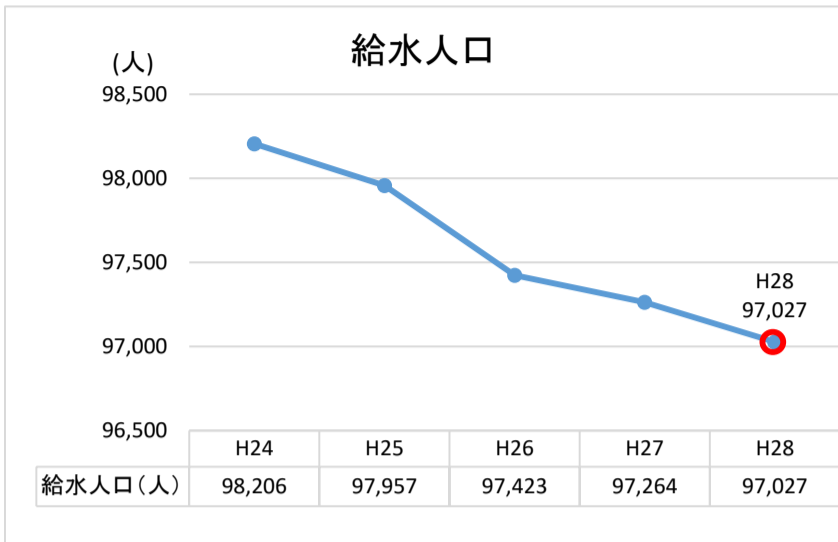


平成28年度安曇野市上下水道事業 決算概要

議会決算説明資料  
上下水道部

I 水道事業決算概要

1 業務量



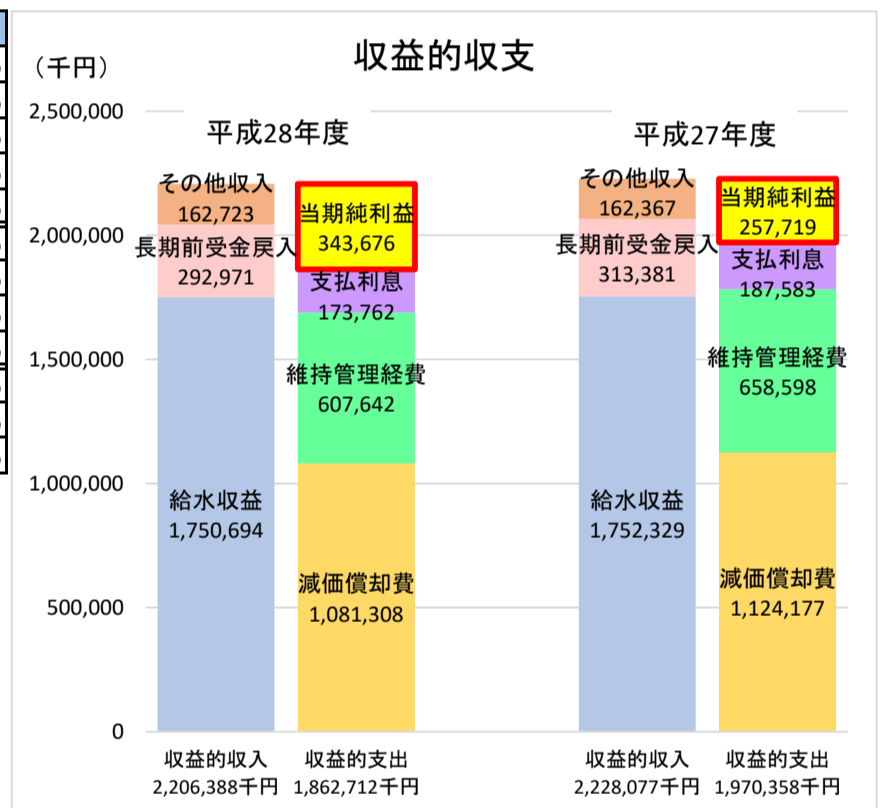
2 収益的収支 (損益計算書)

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。損益計算書とは、水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのか、経営成績を表しています。

(千円) ※消費税抜き

収益的収支	平成28年度	平成27年度	増減	増減率
営業収益	1,903,057	1,900,899	2,158	0.11%
うち給水収益	1,750,694	1,752,329	△ 1,635	△ 0.09%
営業外収益	303,331	327,178	△ 23,847	△ 7.29%
うち長期前受金戻入	292,971	313,381	△ 20,410	△ 6.51%
収益計 ①	2,206,388	2,228,077	△ 21,689	△ 0.97%
営業費用	1,685,581	1,779,799	△ 94,218	△ 5.29%
うち減価償却費	1,081,308	1,124,177	△ 42,869	△ 3.81%
営業外費用	177,131	188,329	△ 11,198	△ 5.95%
費用計 ②	1,862,712	1,968,128	△ 105,416	△ 5.36%
経常損益 ①-②	343,676	259,949	83,727	32.21%
特別損益	0	△ 2,230	2,230	△ 100.00%
純損益	343,676	257,719	85,957	33.35%

収益計は給水人口、給水量の減少に伴い2,168万円減少しましたが、水道施設の電力供給契約見直しによる動力費の削減により、費用計で1億541万円減少したため、純損益は8,595万円増加し、3億4,367万円の黒字となりました。



3 資本的収支

水道施設の整備を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

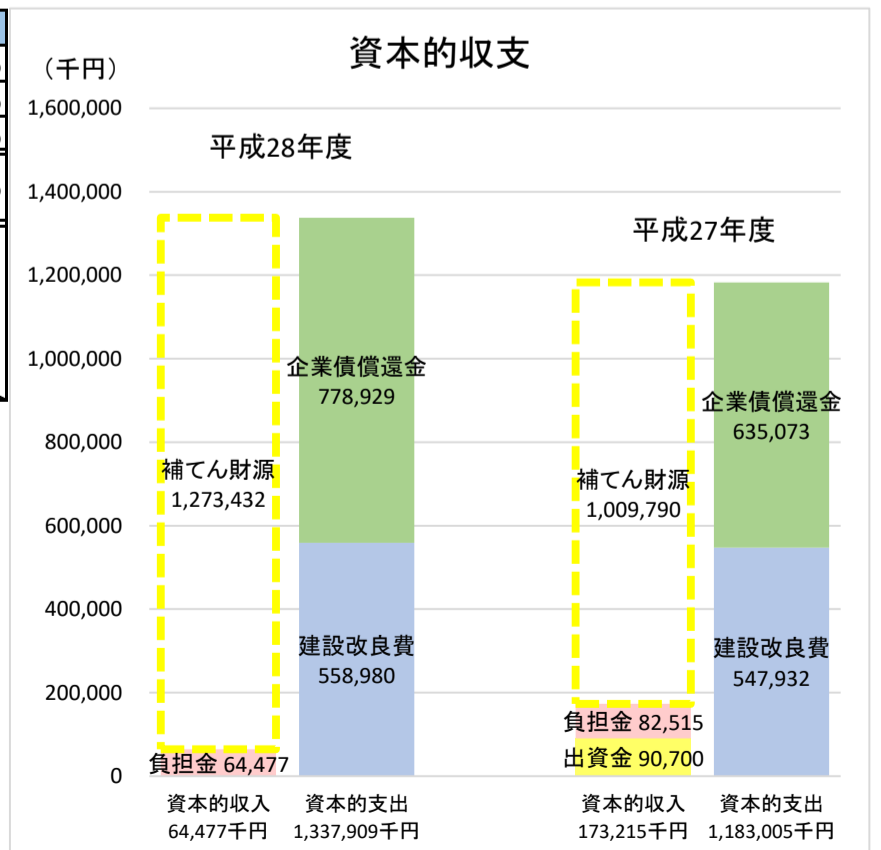
資本的収支	平成28年度	平成27年度	増減	増減率
資本的収入 (a)	64,477	173,215	△ 108,738	△ 62.78%
資本的支出 (b)	1,337,909	1,183,005	154,904	13.09%
うち企業債償還金	778,929	635,073	143,856	22.65%
資本的収支不足額 (a) - (b)	△ 1,273,432	△ 1,009,790	△ 263,642	26.11%
上記補てん財源				
消費税資本的収支調整額	37,751	35,751		
損益勘定留保資金(※1)	1,125,681	854,038		
建設改良積立金	110,000	120,000		

資本的収入は一般会計出資金(合併特例債)の収入が平成28年度にはなかったことや、負担金減少に伴い、1億873万円減少しました。

資本的支出は企業債の繰上償還1億3,732万円などにより、1億5,490万円増加しました。

収支差引で不足する12億7,343万円は、過年度分損益勘定留保資金7億2,427万円、当年度分損益勘定留保資金4億140万円、建設改良積立金1億1,000万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金  
施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金

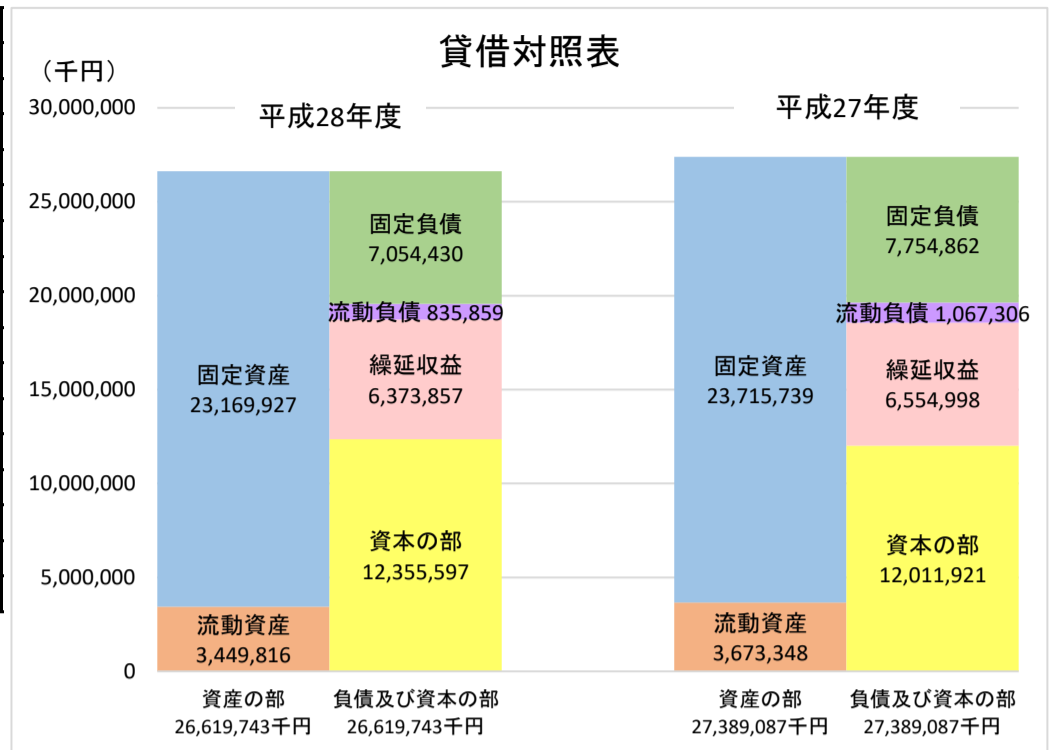


4 貸借対照表

財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。  
(千円)

	平成28年度	平成27年度	増減
資産	26,619,743	27,389,087	△ 769,344
固定資産	23,169,927	23,715,739	△ 545,812
流動資産	3,449,816	3,673,348	△ 223,532
うち現金	3,303,073	3,442,813	△ 139,740
負債	14,264,146	15,377,166	△ 1,113,020
固定負債	7,054,430	7,754,862	△ 700,432
うち企業債	7,054,430	7,754,862	△ 700,432
流動負債	835,859	1,067,306	△ 231,447
うち企業債	563,102	641,599	△ 78,497
繰延収益	6,373,857	6,554,998	△ 181,141
資本	12,355,597	12,011,921	343,676
資本金	10,399,896	10,279,896	120,000
剰余金	1,955,701	1,732,025	223,676
資本剰余金	194,019	194,019	0
利益剰余金	1,761,682	1,538,006	223,676
負債+資本 計	26,619,743	27,389,087	△ 769,344

企業債の繰上償還もあり、負債残高が11億1,302万円減少しました。資産の減少分は主に固定資産の除却によるものです。

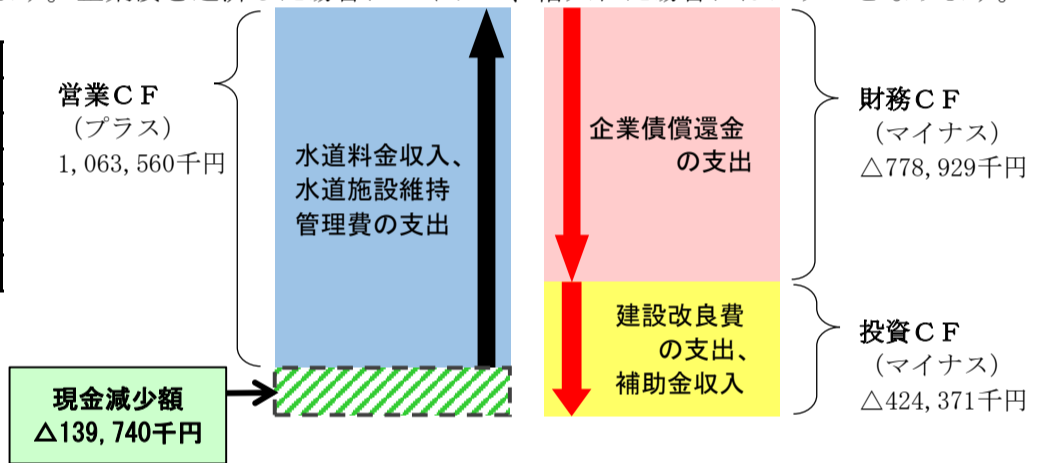


5 キャッシュ・フロー計算書

1年間の現金収入や現金支出を「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。  
 営業CFでは、主たる営業活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。  
 投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスとなります。  
 財務CFでは、資金調達や企業債償還に伴う現金の増減を表します。企業債を返済した場合にマイナス、借入れた場合にはプラスとなります。

	平成28年度	平成27年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,063,560	1,220,712	△ 157,152
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 424,371	△ 687,700	263,329
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 778,929	△ 247,573	△ 531,356
現金増減額	△ 139,740	285,439	△ 425,179
現金期首残高	3,442,813	3,157,374	285,439
現金期末残高	3,303,073	3,442,813	△ 139,740

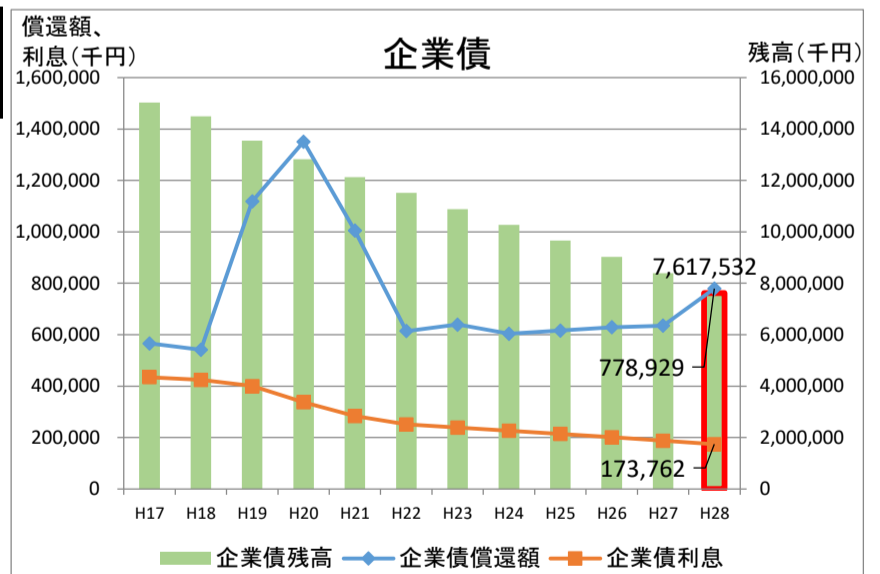
営業活動による現金収入が10億6,356万円と順調な経営となっています。投資活動（現金支出）は配水池の耐震化や老朽管の布設替で4億2,437万円を支出しました。  
 現金の減少は主に企業債の繰上償還によるものです。



6 企業債

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年度末残高	10,276,183	9,660,321	9,031,534	8,396,461	7,617,532

平成28年度の企業債償還額7億7,892万円を支払った結果、年度末の企業債残高は、76億1,753万円となりました。なお、水道事業の経営の安定化のため、一部、企業債の繰上償還を行いました。当年度においても、建設改良事業等に係る新たな借入れは行っていません。



7 利益剰余金

	(千円)
前年度からの繰越 A	206
当年度変動額 B	453,676
当年度純利益	343,676
積立金の取り崩し	110,000
当年度末処分利益剰余金 (C=A+B)	453,882

	(千円)
利益剰余金処分 (案)	
建設改良積立金の積立	343,000
資本金への組入れ	110,000
処分量 計 D	453,000
翌年度への繰越額 (E=C-D)	882

当年度末処分利益剰余金の残高は、前年度繰越額20万円と、当年度純利益3億4,367万円、資本的収支の不足額を補てんするために建設改良積立金を取り崩した1億1,000万円の合計4億5,388万円となりました。

剰余金の処分は市議会での、認定議決を受けて実行します。  
 当年度の利益は、後年度の更新事業の財源に充てるため、建設改良積立金へ積立てます。

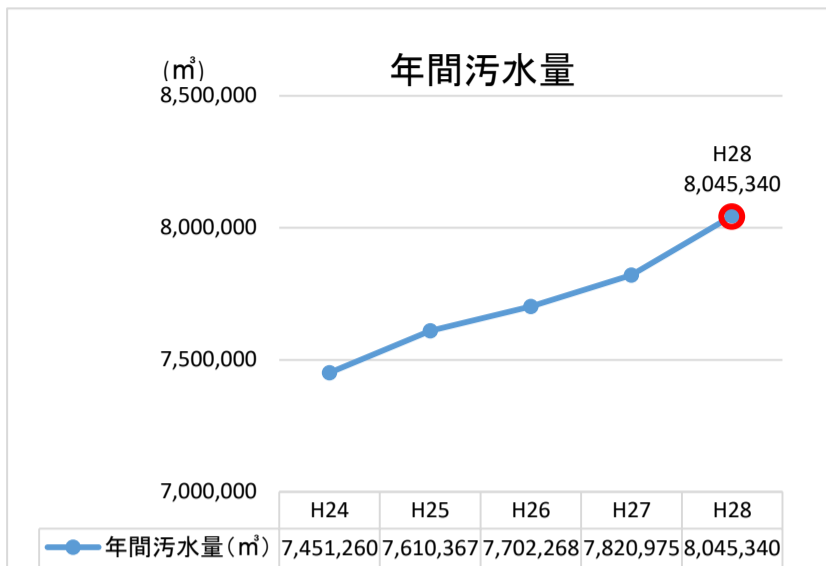
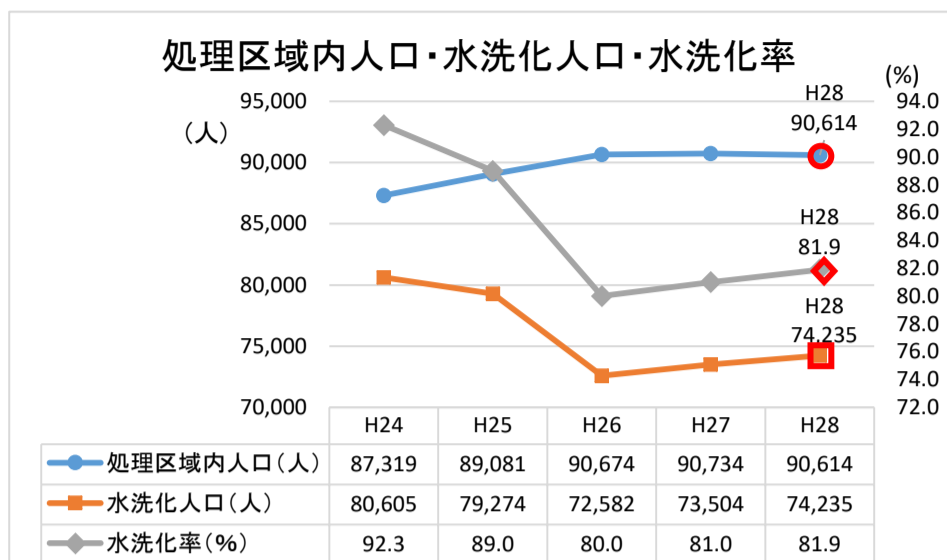
## 平成28年度に上水道事業で実施した主な取り組みについて

<h3>①水道ビジョンの策定</h3> <p>○安曇野市水道事業を取り巻く環境          ・旧水道ビジョン策定(H21.3)から8年が経過          ・年間給水量、料金収入の減少が本格化          ・既存4事業(安曇野市・穂高・堀金・明科)の統一(H29.3)          ・多発する自然災害への備え</p> <p>○安曇野市水道ビジョンの位置づけ          ・本市水道事業H29年度～H38年度(10年間)の基本計画          ・旧水道ビジョンを、国(厚生労働省)の新水道ビジョンの考え方や市の各種計画を参考にしながら改定          ・国(総務省)が策定を要請している「経営戦略」にも該当する計画</p> <h4>基本理念(将来像)</h4> <p>「清らかなで良質な水をいつまでも～信頼を未来へつなぐ安曇野の水道～」</p> <h4>基本目標</h4> <p><b>安全</b> いつ飲んでも安全な水道          いつでもどこでも、安全に飲める水道を目指します。          自然災害等で被災した場合でも、迅速に復旧できる水道を目指します。          給水人口や給水量の減少に対しても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。</p> <p><b>強靱</b> 災害に強く、しなやかな水道</p> <p><b>持続</b> いつまでも地域にあり続ける水道</p> <p><b>信頼</b> 皆様に信頼され、共につくる水道          多様化するニーズに応え、世代を超えて利用される水道を目指します。</p> <p>●安曇野市水道事業経営変更認可申請書及び水道ビジョン見直し業務委託          平成27年度からの2か年にわたる業務委託契約 全体事業費31,860千円</p>	<h3>②漏水対策事業(漏水調査)</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>多点多点相関型漏水探知機で漏水位置を測定し、デジタル探知機等で補完して漏水場所を特定した。</p> <p>《調査方法》</p> <p>《効果》</p> <p>穂高地域4箇所、明科地域3箇所、三郷地域5箇所の漏水を発見し明科地域国道19号線線横断箇所を除く11箇所の修繕を実施した。</p> <p>●漏水調査業務委託費 9,188千円</p>
<h3>③防災対策事業</h3> <p>《配水池耐震化》          市内8箇所ある拠点配水池のうち、耐震性が不足していた上長尾配水池の建設に着手しました。(H28～29)          H29年度しゅん工により、拠点配水池の耐震化は完了します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>●ステンレス構造 V=1800㎡ C=410,400千円(H28 C=205,200千円)</p>	<h3>④老朽(漏水)管布設替事業</h3> <p>《老朽管布設替》          昭和40年から50年代に布設された塩化ビニール管が経年劣化すると亀裂を生じやすくなり、漏水の直接的な原因となっているため、耐震管に布設替えを行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>●C=221,810千円 L=5,760m 22路線</p>

II 下水道事業決算概要

※平成27年度は企業会計移行前のため比較データがありません。

1 業務量



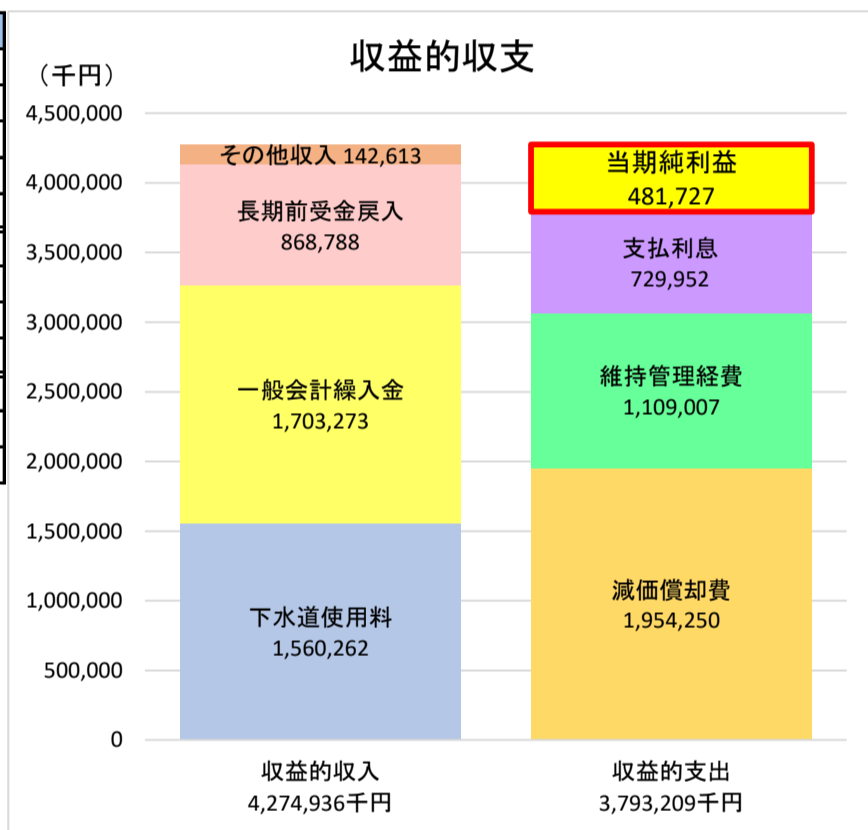
2 収益的収支(損益計算書)

使ったお水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。

損益計算書とは、下水道がどのくらい使用され、その汚水を処理するまでにどのくらいの費用がかかっているのか、経営成績を表しています。

(千円) ※消費税抜き

収益的収支	平成28年度	平成27年度	増減	増減率
営業収益	1,566,019	—	—	—
うち下水道使用料	1,560,262	—	—	—
営業外収益	2,708,917	—	—	—
うち一般会計繰入金	1,703,273	—	—	—
収益計①	4,274,936	—	—	—
営業費用	3,041,231	—	—	—
うち減価償却費	1,954,250	—	—	—
営業外費用	739,065	—	—	—
費用計②	3,780,296	—	—	—
経常損益①-②	494,640	—	—	—
特別損益	△ 12,913	—	—	—
純損益	481,727	—	—	—



主な収益である下水道使用料は15億6,026万円となりましたが、収入の4割近くが一般会計繰入金となっています。

また、下水道事業は当年度より企業会計に移行したため、本来であれば引当金から支出される1,291万円を特別損失として計上しています。

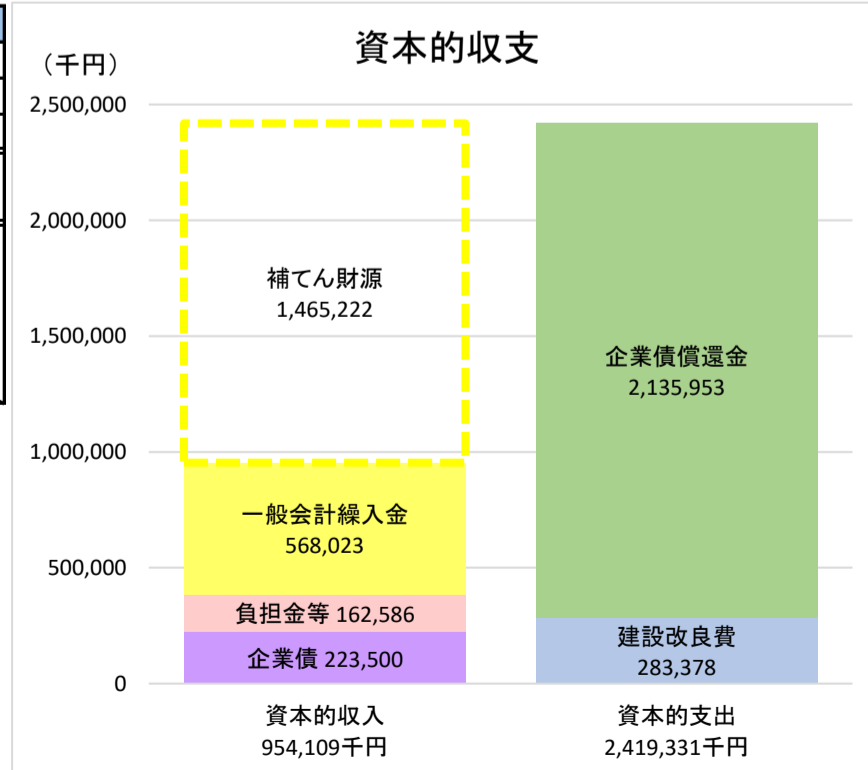
企業会計移行にあたっては資金不足等の懸念もありましたが、一般会計繰入金や前年度流域下水道維持管理負担金精算返還金1億2,111万円により、純損益は4億8,172万円の黒字となりました。

3 資本的収支

下水道施設の整備を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支	平成28年度	平成27年度	増減	増減率
資本的収入(a)	954,109	—	—	—
資本的支出(b)	2,419,331	—	—	—
うち企業債償還金	2,135,953	—	—	—
資本的収支不足額(a)-(b)	△ 1,465,222	—	—	—
上記補てん財源				
消費税資本的収支調整額	8,646	—	—	—
損益勘定留保資金(※1)	1,109,759	—	—	—
引継金	346,817	—	—	—



資本的収入は、建設改良費等の財源とするため2億2,350万円の企業債を新たに借入れました。

収支差引で不足となる14億6,522万円は、当年度発生した損益勘定留保資金11億975万円と企業会計移行前からの引継金3億4,681万円等で補てんしました。

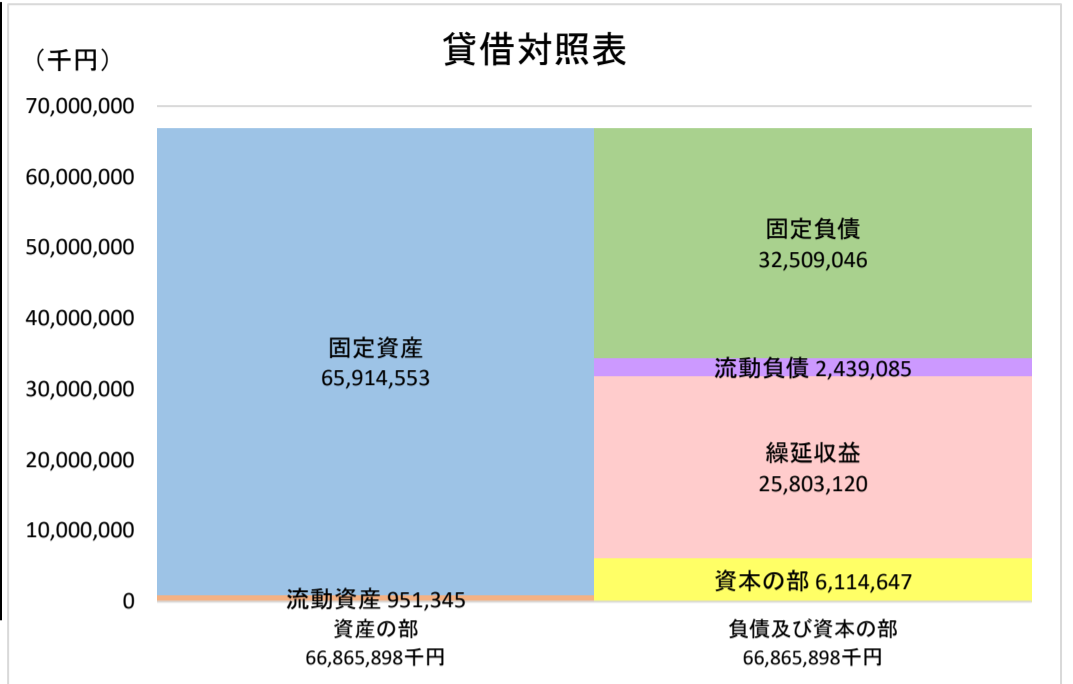
下水道事業は当年度より企業会計に移行したため、補てん財源としての積立ではありません。

(※1) 損益勘定留保資金  
施設の減価償却費などの現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金

4 貸借対照表

財政状態を表し、保有している財産や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。  
(千円)

	平成28年度	平成27年度	増減
資産	66,865,898	—	—
固定資産	65,914,553	—	—
流動資産	951,345	—	—
うち現金	819,030	—	—
負債	60,751,251	—	—
固定負債	32,509,046	—	—
うち企業債	32,509,046	—	—
流動負債	2,439,085	—	—
うち企業債	2,190,314	—	—
繰延収益	25,803,120	—	—
資本	6,114,647	—	—
資本金	5,235,473	—	—
剰余金	879,174	—	—
資本剰余金	397,447	—	—
利益剰余金	481,727	—	—
負債+資本 計	66,865,898	—	—

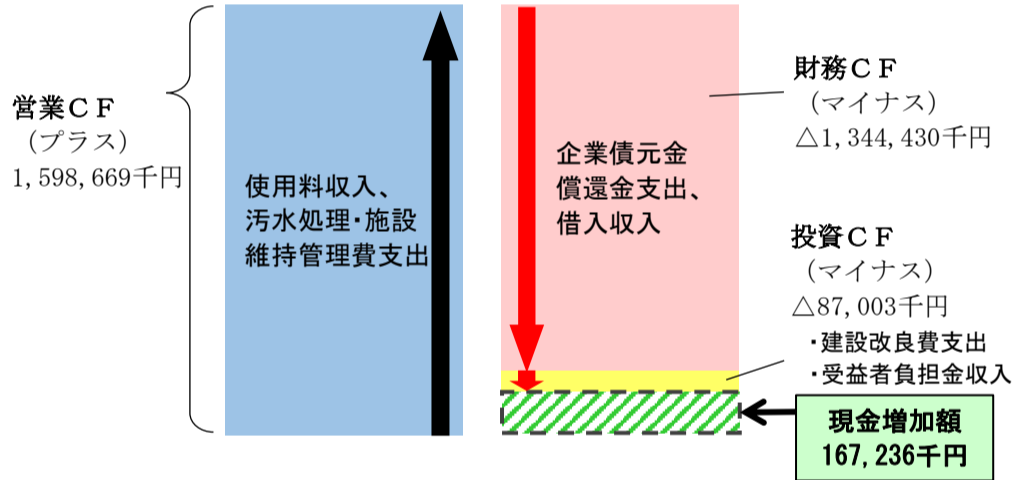


企業債残高が346億9,936万円で、負債合計の6割近くを占めています。

5 キャッシュ・フロー計算書

1年間の現金収入や現金支出を「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。  
営業CFでは、主たる営業活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。  
投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスになります。  
財務CFでは、資金調達や企業債償還に伴う現金の増減を表します。企業債を返済した場合にマイナス、借入れた場合にプラスとなります。  
(千円)

	平成28年度	平成27年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,598,669	—	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 87,003	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,344,430	—	—
現金増減額	167,236	—	—
現金期首残高	651,794	—	—
現金期末残高	819,030	—	—



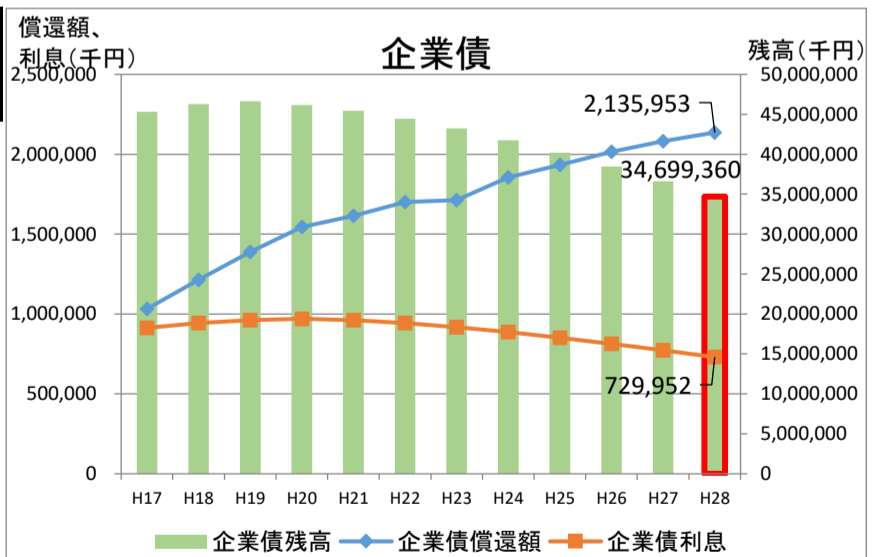
営業活動による使用料収入等が15億9,866万円で順調な経営となっています。企業債元金償還による支出が大きく、財務活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりましたが、営業活動で得た現金により、現金増減額はプラスとなりました。  
現金の増加は主に前年度流域下水道維持管理負担金精算返還金によるものです。

6 企業債

(千円)

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年度末残高	41,753,482	40,190,049	38,445,274	36,611,813	34,699,360

当年度は、建設改良事業のため2億2,350万円の企業債を借入れました。  
一方で、企業債償還額21億3,595万円を支払った結果、年度末の企業債残高は346億9,936万円となりました。  
また、企業債利息として7億2,995万円を支払いました。



7 利益剰余金

(千円)

前年度からの繰越 A	—
当年度変動額 B	481,727
当年度純利益	481,727
積立金の取り崩し	—
当年度末処分利益剰余金 (C=A+B)	481,727



利益剰余金処分(案)	(千円)
減債積立金の積立	480,800
資本金への組入れ	—
処分量 計 D	480,800
翌年度への繰越額 (E=C-D)	927

平成27年度は企業会計移行前のため、前年度からの繰越、積立金の取り崩しはありません。当年度末処分利益剰余金は、当期純利益の4億8,172万円となりました。

剰余金の処分は市議会での認定議決を受けて実行します。  
利益は企業債償還金の財源に充てるため、減債積立金へ積立てます。

平成28年度に下水道事業で実施した主な取組みについて

①施設の維持管理

《下水道施設維持管理》

処理場5施設とマンホールポンプ場157ヶ所および管きよ79.6kmの適正な運転・維持管理に取り組み水環境の保全に努めました。



点検作業・清掃作業  
左：道路上での作業  
中：マンホールの清掃  
右：マンホールポンプ制御盤点検

②防災対策事業

《防災対策》

長時間の停電時にも施設の運転を継続するため、非常用発電機を2台導入しました。また、停電を想定した訓練を実施し、電源の供給手順を確認しました。



左：購入した発電機  
中：停電時訓練中の発電機  
右：発電機から処理施設への電源供給

●維持管理費 175,749千円

委託費：142,989千円

汚泥処分費：20,559千円

修繕費：12,201千円

③公共下水道事業・特定環境保全公共下水道事業

《管きよ工事》

管きよ延長0.9km  
マンホールポンプ場4箇所  
舗装復旧面積11,552㎡



穂高地域の牧、有明地区の管きよ工事を実施し、下水道の普及促進を図りました。

●管きよ工事費 C=192,082千円

●非常用発電機購入費 1,836千円

④流域下水道事業

《建設負担金》

長野県が行う流域下水道事業の建設負担金を支出しました。  
(平成28年度事業内容)

新設された  
データサーバー(写真右)  
と監視装置(写真左)

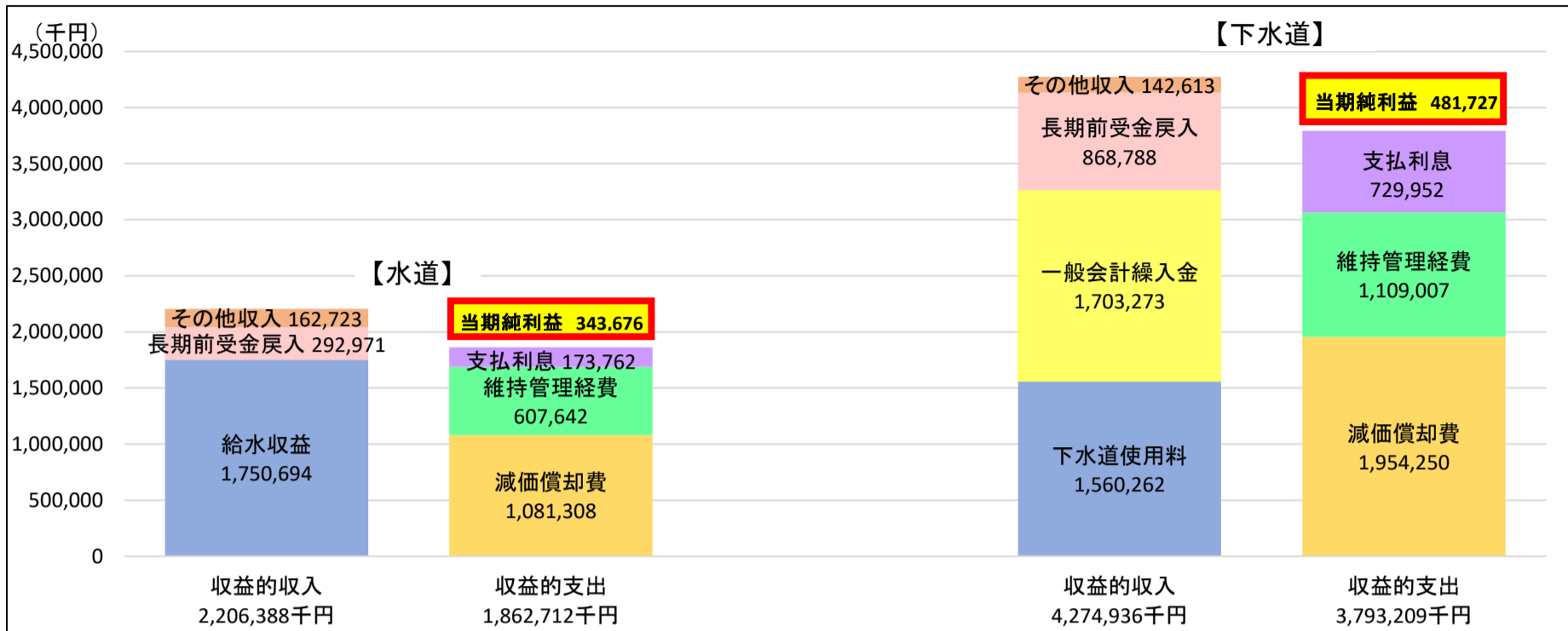


●流域下水道事業費 C=87,920千円

### Ⅲ 水道事業・下水道事業の比較

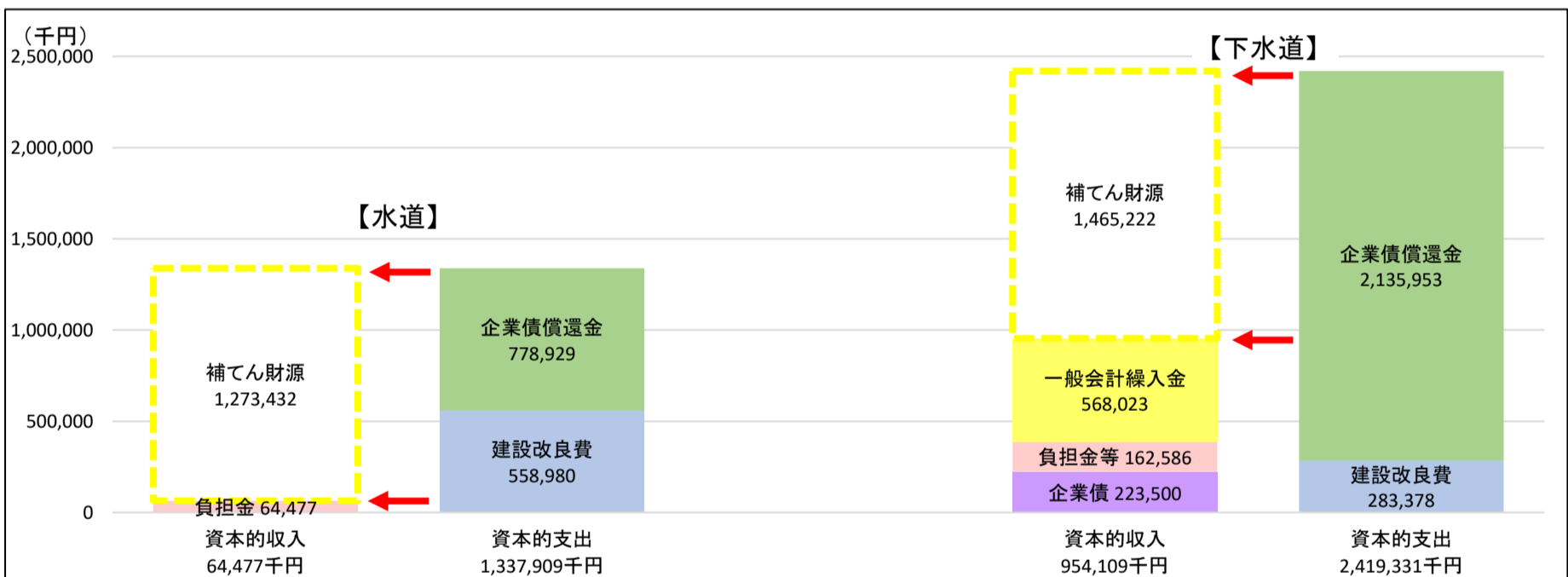
#### 1 収益的収支

水道事業では、給水収益で費用のほとんどを賅っていますが、下水道事業では、使用料収入だけで費用全体の4割程度しか賅っていません。下水道事業の経営には、一般会計からの繰入金が不可欠であることが分かります。



#### 2 資本的収支

2事業とも施設の整備等に係る財源の不足が発生します。水道事業は、過年度から当年度に発生した損益勘定留保資金（減価償却費等）や建設改良積立金などにより補てんしています。下水道事業は公営企業初年度の決算のため、積立金などはなく、当年度発生した損益勘定留保資金と引継金などにより補てんしています。



#### 3 貸借対照表

財政状態で比較すると資産、負債ともに水道事業は下水道事業の3分の1であり、事業規模の差がよく分かります。水道事業では企業債の繰上償還を行い負債を減らす一方、下水道事業は工事を行うための財源として企業債の借入れを行いながら、多額な返済も行っていきます。

